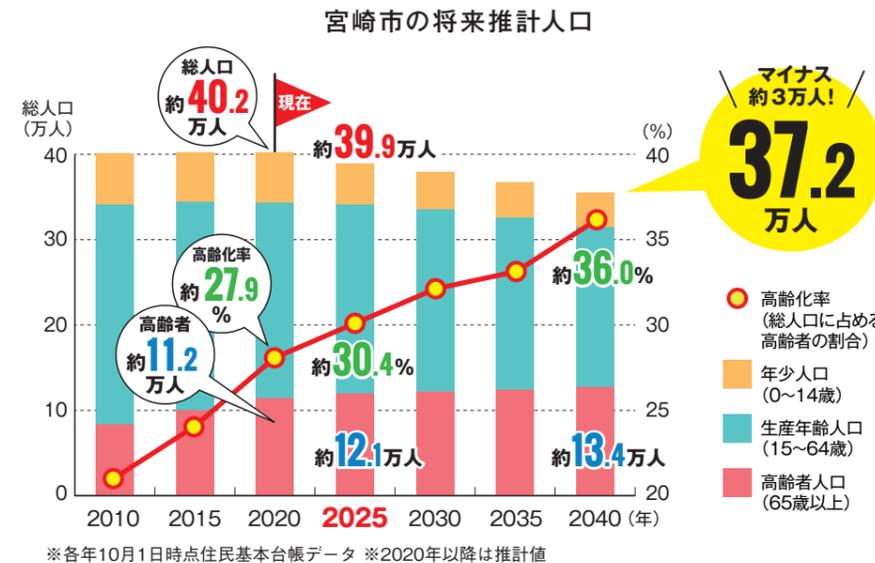


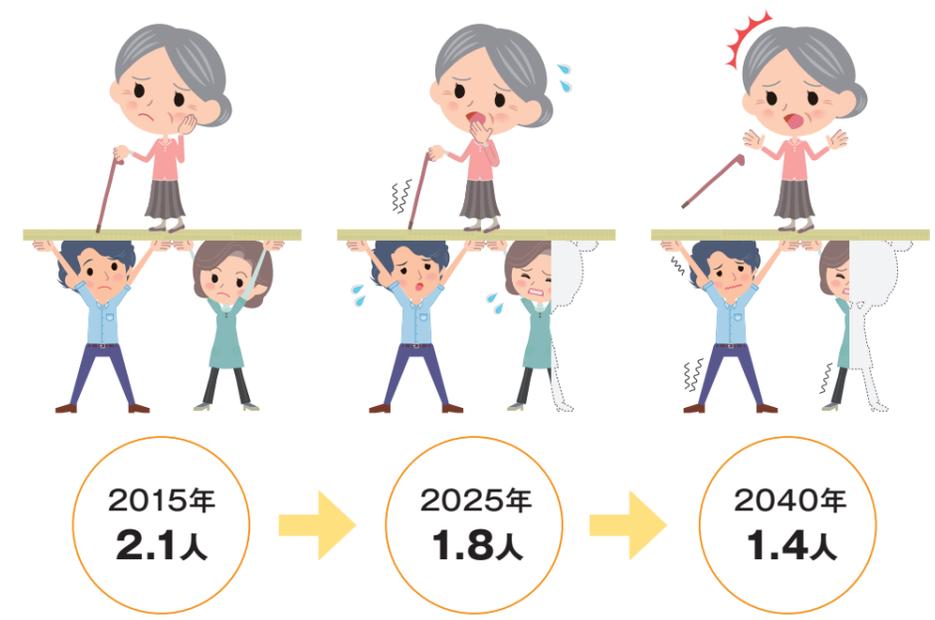
「ぐるみん宮崎」が合言葉 これからの地域の支え合い



2025年はもうすぐ！
さらに少子高齢化が進行

「2025年問題」という言葉を聞いたことがありますか？昭和22(1947)年と24(1949)年生まれの人たちの世代と呼ばれる人たちが75歳以上になるのが5年後の2025年。宮崎市では高齢者(65歳以上)が約12.1万人になり、少子高齢化が進行します。総人口は現在の約40万2千人から2025年には約39万9千人に。高齢化率は27.9%から30.4%にアップします。団塊の世代の子どもたち、いわゆる「団塊ジュニア」である今46歳〜49歳の人々が65歳以上になる

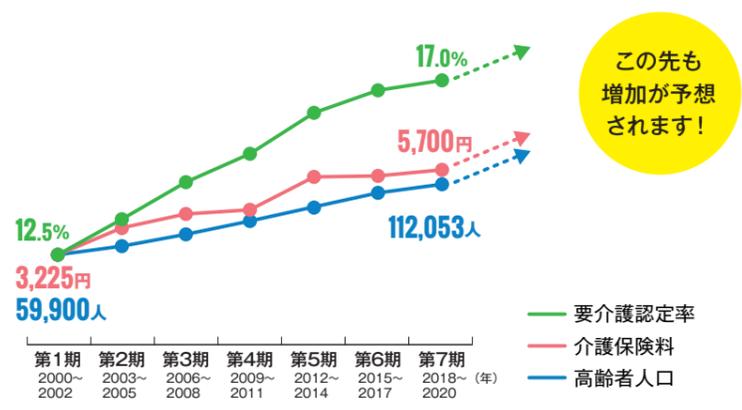
宮崎市は 1人の高齢者を何人で支える？



2040年にはさらに少子高齢化が進行します。少子高齢化が進行することによって、このままでは右の図のように支える側の人が減少していきます。支える側と支えられる側のバランスを保つためには、地域ぐるみでの支え合いの仕組みが必要となります。

次にこちらのグラフも見てみましょう。平成12(2000)年度から約20年間の「要介護認定率」「介護保険料(宮崎市の基準額)」、65歳以上の「高齢者人口」の推移を表しています。グラフのとおり、要介護認定率が上昇していますが、これにより、医療や介護・福祉の

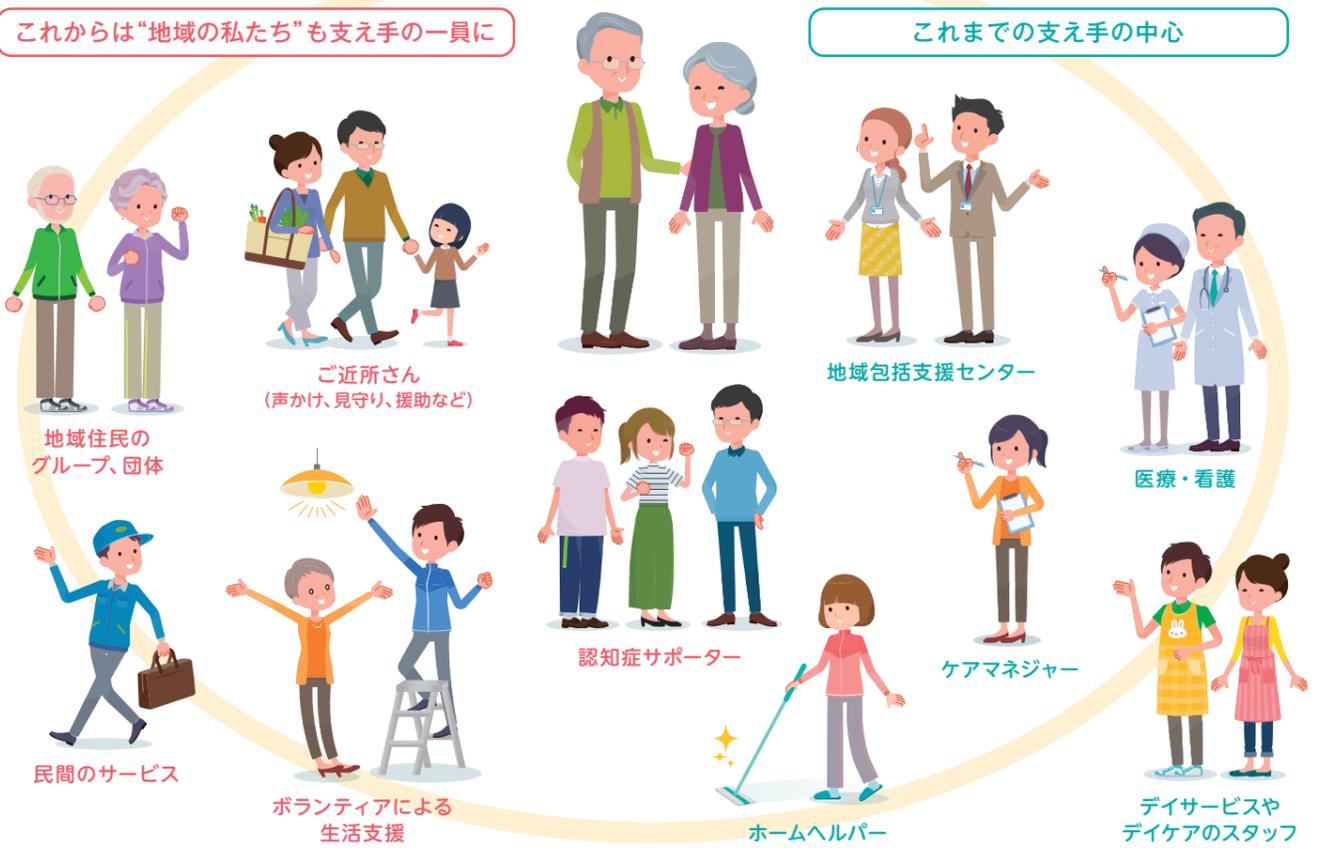
ニーズが高まることが予想されます。ニーズが高まることで、介護保険料の上昇に加え、医療や介護、福祉従事者の不足、家族介護者の負担が増えるなどの問題も予想されます。要介護認定率……高齢者人口に対する介護支援が必要であると認定を受けた人の割合。



だから、これからは 自分事として、より多くの人が高齢者を支える仕組みの

「ぐるみん宮崎」が必要に

ぐるみん宮崎



地域とのつながりを持ちながら、お互いに支え合い、住み慣れた地域で暮らせるまちにしていきたいと思います。

※宮崎市では地域ぐるみの支え合いの仕組みである地域包括ケアシステムの愛称を「ぐるみん宮崎」としています。